

令和3年度 学校評価報告書

島根県立浜田商業高等学校

| 令和3年度 重点目標                | 具体的内容等   | 具体的取組事項   | 評価指標                     | アンケート |     |     | 自己評価   | 次年度に向けての改善方針   | 学校関係者評価 |  |
|---------------------------|--|---|--------------------------|-------|-----|-----|--|--|---------|--|
|                           |  |   |                          | 生徒    | 保護者 | 教職員 |  |  | 評価      | 意見   |
| 1 授業や検定試験対策の充実            | ・わかりやすい授業を展開して、生徒の基礎学力を向上させたか・検定試験対策を適切に実施し、効果を上げたか。 | ・学び直し教材を有効活用<br>・家庭学習定着のための適切な課題や宿題の奨励<br>・各種小テストでの基礎学力の向上<br>・家庭学習時間調査の確実な実施<br>・検定の個別受験時の支援体制 | 評価アンケート<br>家庭学習時間調査      | A     | A   | B   | 家庭学習時間調査を通常時も行いデータをとったが、家庭学習の習慣がない生徒も多く、また、宿題や課題の量も生徒・教員から満足のかない結果であった。コロナ禍にあったが、学年部や教科単位で補習をおこなうなど、生徒への支援体制は十分であった。・確かな知識や技術を習得させるため、検定補習や遅進者対応のみならず、積極的にICTを活用した取り組みを行った結果、検定結果や生徒評価は改善が見られた。しかし、人間力向上への意識付けは不十分であった。  | ①各教科への授業の工夫と課題の再考。<br>②コロナ禍を踏まえ、ICT機器を活用したオンライン授業や課題配信などの活用を図る。<br>③平素の授業からICTを活用し、職員同士情報共有をしながら、教科の特性や生徒の理解度に応じた活用を進めていく。商業教育の基本となる礼法指導などは全教員が共通認識で指導にあたる体制を構築する。   | B       | ・コロナ禍でいつ休業になってもICTを活用してオンラインで授業ができるように準備しておく必要がある。<br>・アンケートの結果から、もう少し家庭学習をするための宿題を増やしたらどうか。   |
| 2 主体的に行動できる生徒の育成          | ・教育の様々な場面を活用して、生徒の主体的な行動を引き出すことができたか。                | ・生徒会の主体的活動への支援<br>・部活動に対する意識の向上と支援  | 評価アンケート<br>出席率<br>部活動加入率 | A     | A   | B   | ・できる感染対策をおこない、学園祭（文化祭・体育祭）、球技大会、その他生徒会の活動を全校で実施でき、生徒の主体的な活動の後押しができた。・コロナ禍もあり、地域活動はあまり参加できなかった。授業を大切にし学校行事や部活動に意欲的に取り組む生徒が増加し、部活動の加入率も上昇した。   | ①感染対策をおこない、学園祭、球技大会、その他生徒会の活動を全校で実施し、生徒の主体的な活動の後押しする。<br>②行事等を通して地域の方々や卒業生と連携し、マナーや自己管理が社会人の基本であると自覚する機会を活用する。   | A       | ・商業高校らしい挨拶・身だしなみなどビジネスマナーの指導を期待する。<br>・体育祭や文化祭、浜商デパートや探究活動発表会をライブ配信することで、コロナ禍にあっても、生徒の主体的な活動の集大成を外部に発信することができた。                      |
| 3 生徒の人権意識の高揚              | ・人権・同和教育を充実させ、人権意識を高めることができたか。                       | ・生徒意識調査を活用しての実態把握<br>・人権・同和教育LHRの充実<br>・差別に対する実践的態度の育成  | 評価アンケート<br>生徒意識調査        | A     | A   | B   | ・生徒意識調査の実施と調査、早期のチーム対応、経過観察、生徒の変化を見逃さない研修を重ねる。・意識調査の振り返りや分析などを詳しく行うことができなかった。来年度に向け、Googleフォームを用いた意識調査を行い、確実な分析・集計の実施を目指す。   | ①全職員での共通認識と情報共有のもと、生徒指導対応を目指す意識調査の振り返りや分析などを詳しく行う。②Googleフォームを用いた意識調査を行い、確実な分析・集計の実施を目指す。③生徒同士が互いに自分の気持ちや行動をコントロールできるよう、学年全体で人権意識を高める雰囲気をつくる。④授業活動を中心に、様々な場面で生徒とのかかわりを持ち、情報交換をしていくことで、小さな変化にも対応できるようにする。           | B       | ・アンケートによると人権教育が十分にいきわっていないようである。人権意識を育成し、差別やいじめの無い学校づくりに努めて欲しい。そして、人権に関わる取り組みについても積極的に広報してもよいのではないか。                                 |
| 4 進路実現の支援                 | ・生徒面談等を通して生徒理解や個に応じた進路支援に努めているか。                     | ・補習、各種模試、小論文指導、面接指導の効果的な実施<br>・ハローワーク、支援センター、行政機関、就労・進学先等との連携<br>・進路志望調査に基づく企業訪問、求人開拓、学校訪問の推進   | 評価アンケート                  | B     | A   | A   | ・全教職員の協力のおかげで四年制大学や公務員等、生徒の希望に沿った進路実現を果たすことができた。・進路行事（地元企業見学、地元企業説明会等）を通して、自らの入社先を決定した生徒もいた。・大学に関する情報を生徒、保護者に提供する取り組みの拡充が必要。・一人ひとりの希望に合わせたきめ細かい指導ができた。例年との違いに苦労した点も多かったが、時間をかけてじっくりと指導を行った。特に全員の先生方に協力して頂いた面接強化週間は効果が大きく、進路目標実現に向けての大きな手助けとなった。  | ①自分の考えを「文章」または「言葉」で表現できる力を育成するために「書いて考える」取り組みを始める。②大学に関する情報を生徒、保護者に提供する取り組みを拡充する。③日頃からの授業や小テストなどの取り組みがすべて進路目標実現につながることを理解させ、社会に出てからも通用する学力の定着を図る。④卒業後の進路実現にむけ、一人一人が計画的な学習活動を実践できるよう指導・支援を行う。                       | B       | ・進路指導において保護者と生徒との意見が異なった場合は、生徒の気持ちを大切に保護者に理解を求め、県内就職者が多く、浜商は地元定着に貢献している。また、就職だけではなく、商業で学んだことを深めるために大学を目指す生徒も増えるといいが。                 |
| 5 積極的な情報発信                | ・ホームページを充実させることができたか。                                | ・ホームページのリニューアル<br>・浜商トピックスの発行<br>・PTA会誌の充実を図る<br>・生徒募集に繋がる魅力化事業の一環として、浜田市役所や県大との連携・交流           | 評価アンケート                  | A     | A   | A   | ・HP・e-メッセージを活用し、生徒と保護者に正確で迅速な情報発信に努めた。・浜商トピックを発行し地域への情報発信に努めた。   | ①必要な情報を的確に随時発信する。②引き続き他の分掌とも協力しながら本校の魅力発信を積極的に行い、生徒確保に努める。③島根県立大学（浜田キャンパス）と連携した取り組みを実施する。  | A       | ・「浜商トピックス」の発行で情報発信に努めている。学校の様子が分かって良かった。また、配付も前回の学校評議員会で提案した箇所にも広げ、地域にも浜商の情報が伝えられた。<br>・HPや「浜商トピックス」の情報発信が令和4年度の志願者増につながったのではないかと思う。 |
| 6 安全指導と危機管理               | ・適切な安全指導や危機管理を行うことができたか。                             | ・防災避難訓練の実施<br>・安全点検の実施<br>・救急法研修の実施<br>・保健だよりの発行<br>・スクールカウンセラーの活用<br>・ゴミの減量化                   | 評価アンケート                  | A     | A   | B   | ・1、2学期避難訓練は実施したが、コロナ感染予防のため、3学期は避難訓練ができなかった。・乾パンを配布し、非常時への備えの重要性について生徒に考えさせた。・担任や業務アシスタントの方の協力があり、徹底した健康観察を行うことができた。長期休業中や休校期間も同様にできた。・スクールカウンセラーとはカウンセリングやコンサルテーションを通じ連携することができた。・インクルーシブ教育システム推進センター校（浜田高校）と連携し、通級等の支援開始。・コロナウイルス感染防止対策に資するため、エアコン更新、トイレ換気扇設置、自動水栓化や自転車小屋改修など修繕工事を積極的に進めた。 | ①消防署との連携をとりながら、生徒・教職員の防災意識が高められるように啓発活動を進めていく。②健康観察や感染予防が形式的にならないよう、今後も情報を発信して注意を促す。③校舎等は近年老朽化が著しく、大規模な修繕箇所が増えており対応が難しい状況ではあるが、生徒の安全安心の確保と学習環境向上のために、積極的に予算要求するとともに、計画的な修繕に取り組む。                                   | A       | ・引き続きコロナ感染対策を徹底して欲しい。<br>・是非、消防署と連携して防災教育を実施して欲しい。   |
| 7 キャリア教育の推進               | ・キャリア教育について理解を深め、その視点に立った指導を展開してきたか。                 | ・地域行事への積極的参加<br>・浜商デパート等の販売実習の充実<br>・課題研究の充実<br>・キャリア・パスポートの活用                                  | 評価アンケート                  | A     | A   | A   | ・デパートでは保護者限定の開催ではあったが、SNSの活用やライブコマースを新たに実施するなど地域へのPRや新しい商業デパートの在り方を示し、魅力化に貢献できた。IT人材育成事業や探究活動においては地元の人材や素材を十分に生かすことができ、生徒にとって有意義な活動になった。・キャリア・パスポートを活用して生徒の活動や思いを保護者と共有する取り組みを学年部と連携して実施した。・自己理解につなげる振り返りの時間を十分に確保できなかった。  | ①引き続きキャリア・パスポートを保護者面談等を通して有効活用する。②「自己理解の深化」につながる「書いて考える」取り組みを始める。③感染状況に関わらずインターネットを上手く活用した取り組みを推進し、調査や分析、発信などで地元連携は引き続き続けていきたい。④デパートや探究活動は高い評価を得ているが、一方でビジネスマナーについての評価が低下しており、先端技術の活用だけでなく商業教育の基本である礼法指導も徹底指導していく。 | A       | ・魅力化コンソーシアムを活用して地域の様々な職業の方を巻き込んだキャリア教育を進めてはどうか。（浜商デパートや課題研究の探究活動などでは地域の方々の協力のもとで実施している。）   |
| 総合的に見て、本校に入学して良かったと思いますか。 |  |   |                          | A     | A   | A   | 浜商デパート、IT人材育成事業や探究活動など商業高校らしい特色に高い高い評価を得た。   | ICTなど先端技術の活用だけでなく商業教育の基本である礼法指導も徹底指導していく。  | A       | 保護者が直接携わっていないアンケート項目は判断がしにくいものがある。   |

評価基準 A(できている)=4.0≧3.1 B(だいたいできている)=3.0≧2.6 C(やや不十分である)=2.5≧1.0 D(不十分である)=2.0≧1.0 (4.0満点中)